

みんなで子育て No.6

バックナンバーは
こちらから▶



環境エネルギー生活部 県民生活課
家庭教育推進専門職 : 辻
Tel 058-272-8206



旧暦の8月15日は「中秋の名月」ですが、これは中国から伝わってきた習わしです。日本独自のお月見として「十三夜」があります。これは旧暦の9月13日の月を見て楽しむ風習で、これら2つの月見をセットで行うのが、日本の本来の習慣のようです。片方しか見ないのは「片見月」といわれ「縁起が悪い」とされてきました。

ところで、「月」を毎日観察したことがありますか？ 月は毎日形を変えていきますが、同じ形の月を見ることができるとはおおよそ30日後です。このため、30日（または29日）を「ひと月」として暦にしたのが旧暦（太陰太陽暦）です。（この暦だと十五夜＝満月となります。わらべうた「うさぎ」の「うさぎうさぎ 何見てはねる 十五夜お月さん 見てはねる」の歌詞と合致します。）

現在、私たちが使っている暦は「太陽暦（グレゴリオ暦）」で、太陽の見かけの動きをもとに作られており、1年は365日（閏年は366日）です。太陰暦と太陽暦では、1年で11日ほどずれるため、旧暦は3年に1回、閏月（うるうづき）を設ける（1年を13か月にする）ことで、季節と暦のずれを調整してきました。

話を戻しますが、毎日、月を観察していると、見かけの形や出入りの時刻が変化することや15日の夜なのに満月でないことなど、子どもでも気づくことができます。小さな変化にも気づくことができる目を養うために、月の観察はもってこいの教材だと思うのですが、いかがでしょう。

ちなみに、次に日本全国で皆既月食をみることができるのは、2029年1月1日の深夜となります。少し先になりますが、家族でぜひ観察してみてください。

岐阜市立厚見学園 「親子で考えよう お金のこと」 7月4日（土）

講師： 東海ろうきん岐阜支店 FC 井川 晟奈 氏



厚見学園では、お金に関する知識を学ぶ家庭教育学級（3年目）を開催しました。これまでは平日に保護者向けの講座として実施していましたが、今年度はより多くの方に参加していただけるよう、休日に公民館で親子が一緒に学ぶ形式に変更しました。

講話は、ワークやクイズを交えながら分かりやすく進められました。はじめに、「もし5万円もらったら何に使いますか？」という問いが投げかけられ、「必要なもの」と「欲しいもの」に分けるワークに取り組みました。親子で相談しながらワークシートに記入し、お金の使い方について考えを深めていました。講話では、賢い

- ・お金には限りがあるため、優先順位をつけて使うこと
- ・まずは貯蓄を行い、残ったお金を生活費として使うこと
- ・貯蓄と投資を目的に応じて使い分けること
- ・投資は植物を育てるように、時間をかけて少しずつ育てること
- ・お金について家族で話し合うこと など、

お金の使い方・貯め方・増やし方の基本を学びました。

後半には親子が別れて学びを深める時間も設けられ、子どもたちは1億円分の模擬紙幣を実際に持ち、その重さを体験することで、お金への関心を高めていました。

参加者の声

- ・お金の増やし方やどのように使うとよいのかを学べてよかったです。（子）
- ・お金についての知識がゼロに近いので、子ども向けの講座が私にとっても分かりやすくよかったです。（親）
- ・家庭では、親子でお金について話をすることがほとんどないので、今回の講座は親子でお金について考えるよいきっかけになったと思います。（親）
- ・お金についてあまり意識したことがなかったけど、これを機会に意識していけるとよいかなと思いました。（子）
- ・資産運用については、購入していた10年国債が満期になって戻ってきた時なので、今日教えていただいたことを活かして、次どうするかを考えたいと思います。（親）
- ・子ども名の印鑑で通帳をつくり、いただいたお年玉などは子ども本人に管理させています。（親）



講師：認定こども園だいち職員 高居 小百合 氏

認定こども園だいちでは、3種類の天然染料【青（アイ）・黄（タマネギ）・赤（スオウ）】を使い、シルクスカーフを6色の縞模様染める「虹染め講座」を実施しました。

講師の高居氏から作業工程について説明を受けた後、園児たちが野菜を育てている畑に植えられた藍の葉を摘み取り、青色の染料づくりに挑戦しました。藍の葉から作った染料液は緑色をしていますが、布を染めて空気に触れさせると酸化し、不思議なことに青色（水色）へと変化します。染色は、黄色、青色、赤色の順に行いました。それぞれの色が重なり合うことで、中間色である緑色、紫色、オレンジ色が現れ、美しい虹色のスカーフが完成しました。

高居氏からは、「草木染めは身近な植物を使って楽しむことができるので、ぜひ家庭でも子どもたちと一緒に挑戦してみてください」とのお話がありました。

年長児には染めた毛糸を使ってポシェットを織る保育活動があり、子どもたちの手先の器用さや集中力を育む機会となっているそうです。



保護者の声

- ・単色でも染めたことがなかったので、出来上がった時、とてもきれいで感動しました！虹色のグラデーションの作り方、とても勉強になりました。
- ・2回目の草木染めでしたが、とてもきれいに染まって嬉しかったです。染める際には広げながら染めることでムラが出にくくなるのが勉強になりました。家でも他の素材や染料で試してみたいと思います。
- ・色と色が混ざっていく瞬間を目の前で見るので、子どもたちにも見せてあげたいなあと思いました。
- ・楽しく染めることができました。他のお母さんともお話ができてよかったです。
- ・何もかも忘れて染めることに夢中になりました。よい時間を過ごすことができました。

各務原市立那加第三小学校 「食の安全 知っ得講座」 7月9日(木)

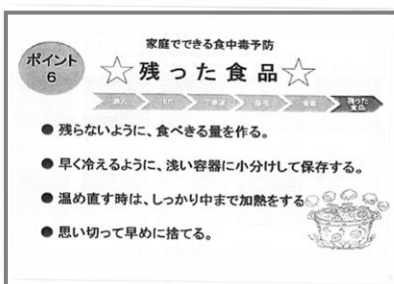
講師：岐阜保健所 生活衛生課 小林 香夫 氏



那加第三小学校では、リーダー研修会の折に紹介した「県職員出前トーク」を活用し、「食の安全」について学ぶ機会を設けました。最近気温や湿度が高くなり、多くの方が不安を感じている食中毒について、岐阜保健所の小林氏からお話を伺いました。

講話では、食中毒の種類や発生の仕組みについて説明がありました。自然毒や腐敗によるものは臭いや味で気付くことができますが、細菌やウイルスが原因の場合は、五感で感知することができません。そのため、食中毒予防の三原則である ①細菌やウイルスを付けない、②増やさない、③やっつける ための具体的な方法について学びました。

繰り返し強調されたのが「手洗い」の大切さです。令和7年に発生したノロウイルスによる食中毒は462件と過去10年で最多となりました。一方、感染症対策として手洗いが徹底されていた令和2～4年は100件を下回っており、手洗いの有効性を実感することができました。



保護者の声

- ・子どもがお寿司やお刺身などの生ものが好きなので、気になって参加しました。食中毒は直前に食べたものが原因で起きると思っていましたが、2～3日前のものが原因になることもあることを知り、びっくりしました。手洗いはしていますが、もっとしっかり手洗いをしなければと思いました。
- ・とにかく手洗いなんだということが分かりました。食中毒を起こさないように、食材管理を丁寧に行っている方だと思っていますが、「より一層丁寧に！」を、心がけたいと思います。
- ・調理の仕事をしているのですが、「できれば石けんを使って手を2回洗ってください。」という先生の言葉にショックを受けました。「1週間前の食べ物が原因で食中毒になることもある」というお話にも驚きました。

笠松町立下羽栗小学校 「親子で楽しむ香りの時間」 7月22日（水）

講師：お香ゲゼレ 小野 知子 氏

下羽栗小学校では、奇数月の第3水曜日を家庭教育学級の開催日としています。午前中は講話や活動の時間、午後はお弁当を食べながらの子育て談義の時間で、正午を挟んで約3時間を計画しています。7月は夏休みにあたるため、親子で一緒に楽しめる活動とを考え、3種類の精油を線香の原料である「タブ粉」と練り合わせ、円錐形を基本に自由に成形するお香作りに取り組みました。

講師の小野氏は、昨年まで各務原市立小学校のPTA役員を務められた方で、家庭教育学級の活動にも理解があり、良い香りの効能や使用の歴史などについて、子どもたちにも分かりやすいよう図で示しながら教えていただきました。お香が焚けるようになるには、2～3週間の乾燥が必要だそうです。完成したお香は紙の箱に入れ、持ち帰ることができるようにして午前の部を終えました。

この日は3種類のお弁当が準備されており、机を口の字にして、お弁当を食べながら、日頃、疑問に思っていることや、尋ねてみたいことなどを交流しました。



参加者の声

- ・参加は今回が初めてです。匂いに癒されながら、すごく楽しく取り組みました。
- ・町の夏休みの講座はすごい倍率で、並んでもなかなか権利を得ることが難しいので、こちらの講座に申し込みました。子どもと一緒に参加できるのが良かったです。
- ・仲の良いお母さんが誘ってくださるので、毎回この会に参加するようにしています。不器用なので、きれいに成形するのが大変でした。
- ・ふだんやらないことができて、子どもと一緒に経験できて良かったです。なかなか円錐形にならず形を整えるのが難しかったです。
- ・水を加えて丸くこねるのが、楽しかったです。（子）

各務原市立中央中学校 「親子で楽しく軽スポーツ」 7月25日（土）

講師：各務原市レクリエーション協会理事長 奥村 京子 氏 + スポーツ推進委員の皆さん



中央中学校PTAでは、「家族みんなで楽しめる活動を」という願いのもと、子どもから高齢者までが気軽に楽しむことができる軽スポーツ「ボッチャ」と「ガラッキー」の体験会を開催しました。昨年度末に体育館へエアコンが設置されたこともあり、快適な環境の中で実施することができ、当日は14チーム（家族）が参加して競い合いました。

ガラッキーは、ロシアに伝わる民族スポーツ「ガラトキー」をもとに、日本で安全かつ誰でも楽しめるよう改良されたスポーツです。“ダーマ”と呼ばれる円錐形の起き上がり小法師のような用具を、円の中に投げ入れたり滑らせたりして得点を競います。

どちらの競技も、基本動作はボールやダーマを軽く投げたり転がしたりすることです。そのため、小さな子どもでもゲームを重ねるうちに徐々にコツをつかみ、自分の狙った場所に配置できるようになっていきました。また、技術だけでなく運も勝敗を左右するため、思いがけない好プレーや逆転劇に歓声が上がる場面もありました。参加した家族は、喜んだり悔しがったりしながら互いに声を掛け合い、笑顔あふれる楽しいひとときを過ごしていました。

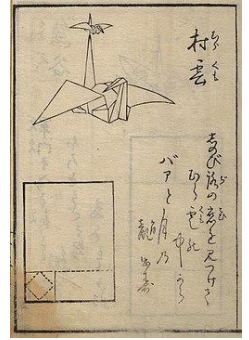
参加者の声

- ・ガラッキーは初めてで、戦略を立てて操作するのがおもしろかったです。思ったようにいかないところも魅力だと感じました。普段は親子でこのようなことを行う機会がないので、よい機会となりました。
- ・楽しかったです。もう少しやりたかったです。簡単そうに見えて、頭脳もいりますし、知らぬ間に競技に集中していました。年齢に関係なく大人と子どもが対等に競い合えるのが良かったです。
- ・家族で行えて楽しかったです。相手のダーマを囲むようにするために頭を使いました。
- ・楽しかったです。困めた時の爽快感が良かったです。（子）
- ・動きが複雑で、思ったところへダーマが行かなくて難しかったです。親子で相談しながらできるところが、コミュニケーションがとれ良かったです。

園の在宅型の取組として使われる「折り紙」

寛政9年（1797年）、世界で最も古い折り紙の本「秘傳千羽鶴折形（ひでんせんばづるおりがた）」が出版されました。折り紙は、明治時代に入ると幼稚園や小学校の教育にも取り入れられるようになります。

発行済み通信の中で、**長期の休みの期間に、園の在宅型の取組として実践された事例や、年末に、来る年の干支の置物を折り紙を使って親子でつくる小学校での取組を紹介させていただきました。**



折り紙は、紙を折ることのみで形を生み出す日本独自の文化と言えます。ハサミやノリも使わず、一枚の紙を「折る」という行為だけで、鶴や花、動物や飾りなどの造形物を無限に生み出すことができます。シンプルでありながら奥深く、まさに日本の「技」が詰まった文化といえます。

また折り紙には、指先の器用さや集中力、創造力など、特に3～4歳の幼児期に伸ばしたい力を育む効果が多くあります。海外でも“Origami”として広く知られ、世界各地に「折り紙協会」がつくられるほど、大人の間でも人気が高まっています。

折り紙は、親子はもちろん、外国の方やお年寄りなど、さまざまな人と心を通わせるコミュニケーションツールとしても活躍します。国際試合後、ロッカールームをきれいに片付けて折り鶴とメッセージを残したサッカー日本代表のエピソードが話題になったこともありました。日本に暮らす私たちとして、折り紙は身に付けておきたい素敵な伝統文化の一つですので、ぜひご家庭でも、お子さまと一緒に楽しみください。

<子どもへのメリット>

- ・指先の器用さを養う
- ・集中力、忍耐力を養う
- ・創造力を養う
- ・手順に沿って作業する力を養う
- ・空間認知能力が鍛えられる
- ・日本文化に親しめる

<1歳児でも>

- ・カラフルな色を楽しめる
- ・丸めたり破ったりできる
- ・折ることによっていろいろな形が楽しめる
- ・様々な形に切ることでパズル遊びができる（合わせ遊び）

<保護者のメリット>

- ・持ち運びと収納が容易
- ・場所を選ばない
- ・安価である
- ・親子一緒に楽しめる
- ・身近な知育玩具として使える

折り紙に込められた知恵 — 「ミウラ折り」の魅力

「ミウラ折り」は、東京大学名誉教授の三浦公亮氏によって考案された、少し特別な折り紙の折り方です。一般的な折り方とは異なり、折り線がジグザグ状に配置され、折り目が重ならないよう工夫されています。この構造により、紙の対角線方向に軽く力を加えるだけで、一瞬で大きく広げたり、コンパクトに折りたたんだりすることができます。

この折り方は、実は最先端の科学技術の現場でも活用されています。宇宙空間では、細かな作業や複雑な動きを行うことが非常に難しいため、確実に、そして簡単に操作できる仕組みが求められます。そこで1994年に打ち上げられた宇宙実験・観測フライヤーの太陽光パネルの開閉に、このミウラ折りが採用されました。折り紙の知恵が、宇宙開発を支えていると言っても過言ではありません。

また、私たちの身近な生活の中でも、ミウラ折りは活躍しています。それは地図や観光マップなどです。カバンから取り出して、さっと広げて確認できるのは、ミウラ折りのおかげです。何気なく使っているものの中にも、工夫と知恵が詰まっています。

折り紙は、単なる遊びではなく、考える力や工夫する心を育てる文化でもあります。子どもが折り紙に触れる時間は、楽しみながら学ぶという「学びの芽」を育てる大切な時間と言えるかもしれません。折り紙の中に、科学や技術、そして人類の知恵が息づいていることを感じ取りながら、楽しんでほしいと思うのです。



ぎふ清流ハーフマラソンのコースマップにも使われています！（画像提供：ヨツハシ）